マリンレジャー安全情報（カヌー）

～「安全に活動できる準備」あなたはできていますか？～



事故事例

単身でカヌーに乗り天草西沖に魚釣りに出たが、風と波が強くなったため、出発地点に戻ろうとしたものの、パドルを漕いでも前に進まず帰還困難となりました。
※その後、１１８番通報し無事救助されました。

【事故当時の気象・海象】
風速８m/ｓ、波高1.5m

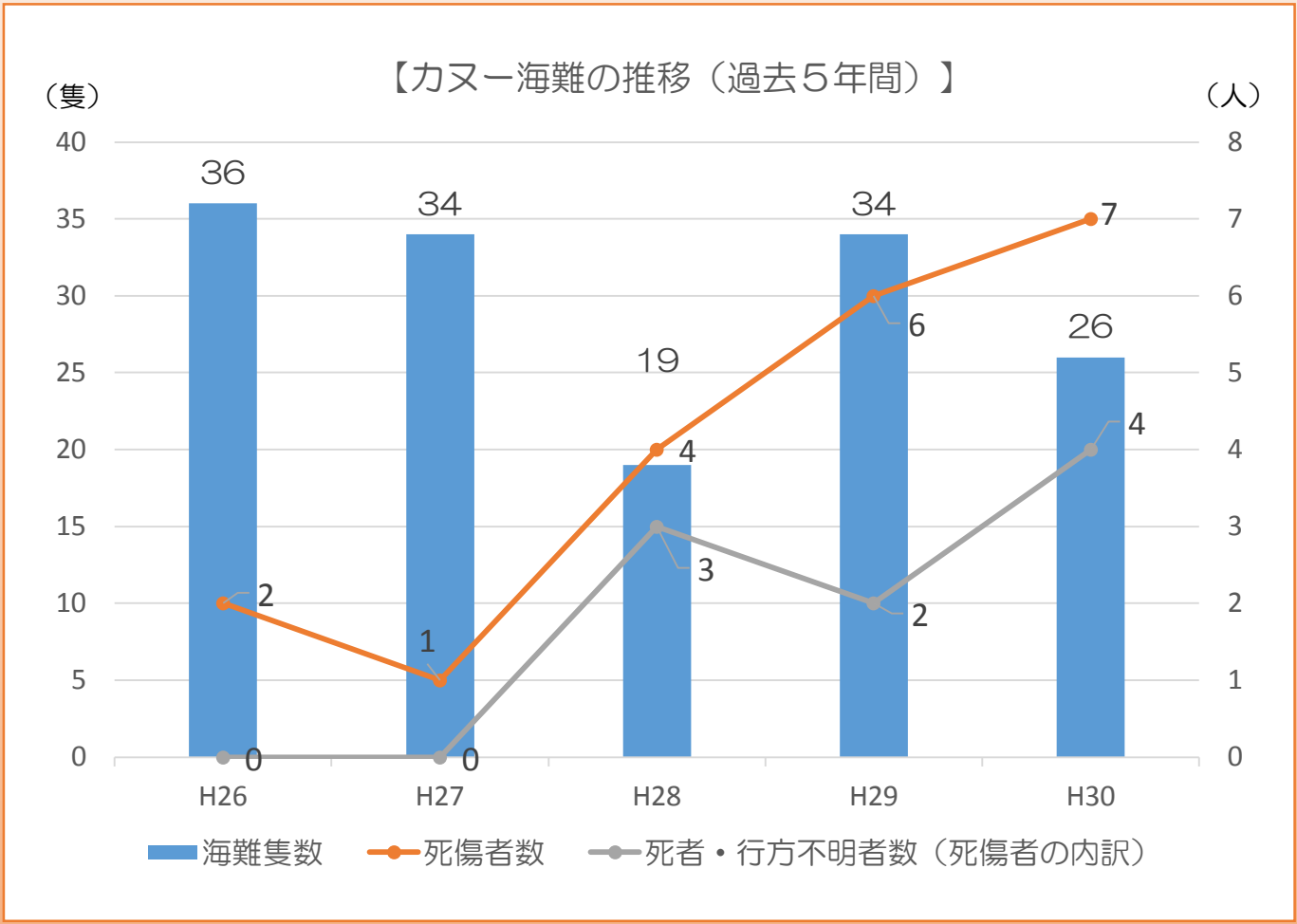
事故原因

事故当日、天草地方には、強風注意報が発令されていましたが、「これぐらいなら大丈夫だろう」と過信し、出てしまったことが原因でした。

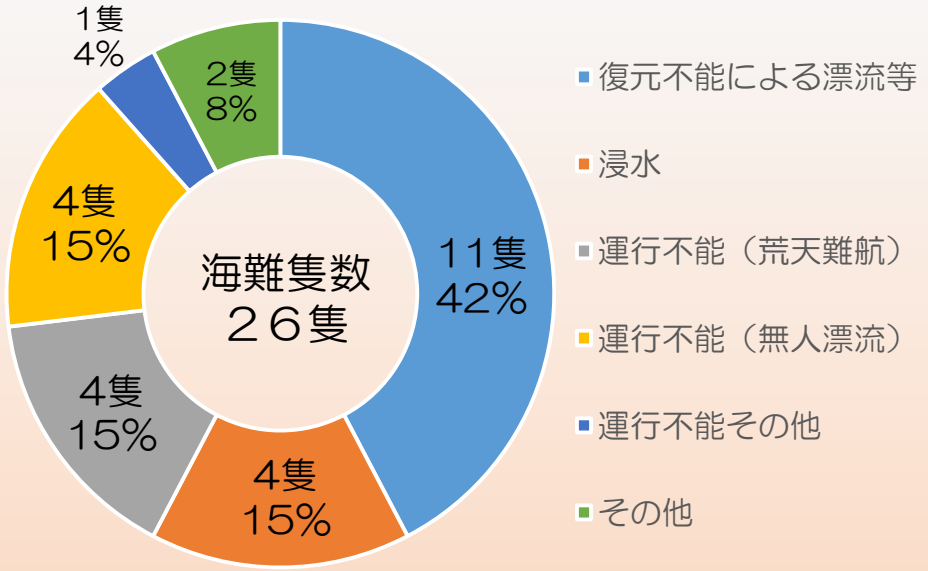
例年、荒天や技能不足により帰還不能となる事故が発生しています。事故防止のため、安全のために推奨される装備品、活動時の注意事項及び事故事例以外にもどのような危険が潜んでいるか経験者からお話を伺いましたので紹介します。

まずはカヌー事故発生状況を見てみましょう

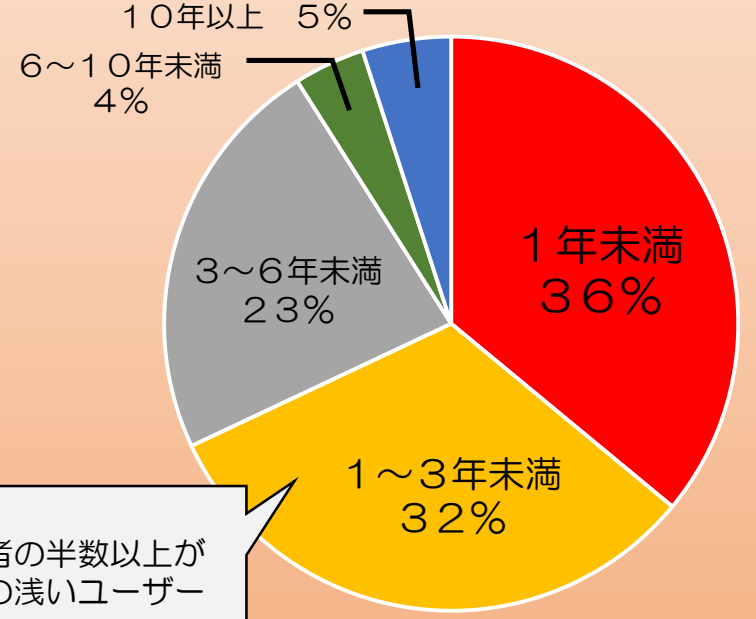
平成30年における全国のカヌー海難隻数は26隻で、死者・行方不明者は4人、負傷者は3人でした。このうち経験年数が3年未満の事故者は全体の約7割を占めており、原因の多くが気象海象の不注意や知識・技能不足でした。ユーザーは熟練の経験者から話を聞いたり、適切な指導を受け正しい知識と安全意識を向上することが重要です。



【カヌーの海難種別の割合（平成30年）】



【カヌーの経験年数別の事故発生状況（平成３０年）】



事故者の半数以上が
経験の浅いユーザー

気象・海象の不注意による事故を未然に防ぐために

活動前の天気予報と現場の海の状況の確認

を行います。経験者によれば水の上に浮かんでいるカヌーは風の影響を受けやすいとのことですので検証をしてみました。

カヌー活動時における風浪の影響



検証結果

東の風４～５m/s、海上平穏な状態でカヌーに１名乗りパドルを漕がずに風にどの程度流されるのか検証しました。結果は、20秒で約20m、毎秒約１mも流されます。

検証のとおり風に流されやすいことが分かりますが、実際に風の影響で漂流する事故が発生しています。特に陸から沖へ向かって吹く風（オフショア）には注意が必要です。事故を防止するためには天気予報及び現場での気象・海象の確認は必須です。

熟練の経験者談

カヌーで2kt（時速3.7km）の潮流を正面からうけた際、１時間漕ぎ続けても１km以下しか進まなかったことがありました。

カヌーの種類について

カヌーには利用する水域によって様々な種類があり、種類ごとにもたくさんのモデルがあります。今回はシットオン・トップカヤックとシーカヤックについて経験者からお話を伺いましたので、それぞれの特徴について解説します。

カヌー（パドルで漕ぐ小船）

シットオン・トップカヤック

カヤックの上に座るタイプです。中空構造であり、浮力が強く幅も広いため転覆しにくい船型をしています。



※釣りや沿岸部でのレジャーによく使われています。

シーカヤック

前後にハッチがあり、荷室と浮力室を兼ねるため、沈まない構造で、艇内で下半身をフィットさせるように乗り込むタイプです。シットオン・トップカヤックに比べ幅が狭くスピードが出ます。また、操縦性能を高めるためラダー（舵）付きの種類のものもあります。



※ツーリングによく使われています。

その他

- リバーカヤック
- インフレータブルカヤック
- フォールディングカヤック
- カナディアンカヌー

等

様々な種類のカヌーがありますが、自分のカヌーの特徴を良く理解したうえで活動時は目的にあったタイプのものを使用しましょう。

カヌー活動前の注意事項

- 初心者の方に合わせたコースを組み立て経験者と確認します。

  風や波の影響を受けにくい沿岸部近くで活動しましょう。

- コース上に漁船などの船舶が通航するところ、漁具が設置されているところ、素もぐり漁をしている場所などをさけることも大事です。周囲を常に見張っておくことが大切です。

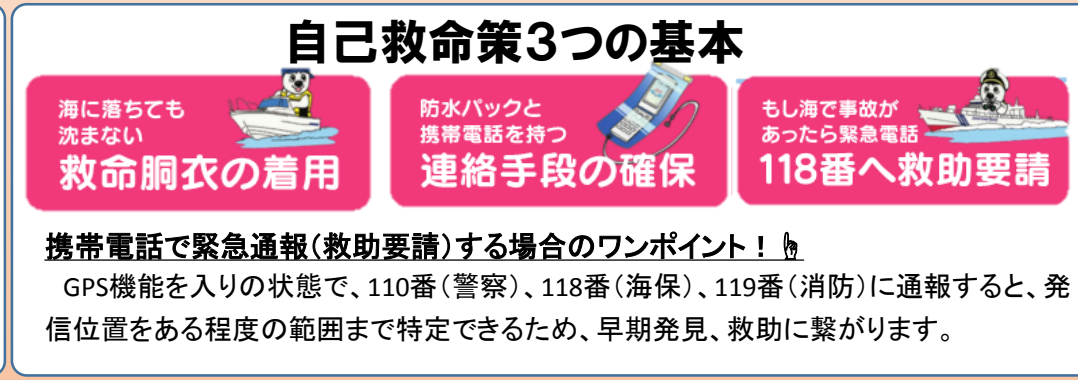
  地元の方の話に耳を傾け情報を得ることも重要です。（熟練の経験者談）

- 家族等にメールや電話で今からどういうコースに誰と出発し、何時頃帰るか連絡しておきましょう。

  事故が発生した場合は、直ちに１１８番通報してください。（下図参照）

カヌーの事故情報や安全に関する詳細情報は
*二次元コードからアクセス*又は
『ウォーターセーフティガイド』で検索

二次元コード



- 出発前の装備の確認（次ページ参照）

  初心者の方は経験者と共に装備を再確認します。装備品の事前点検を確実に行ってください。

推奨される装備品

①パドル
体格に合ったものを使用しましょう。またパドルの破損や流出に備えて、予備のパドルも携行しましょう。

②ライフジャケット
法律上の着用義務はありませんが命を守るためには着用しましょう。
またシーカヤックは船から見えにくいといわれています。
出来るだけ目立ちやすい色の救命胴衣を着用しましょう。

③防水パック入り携帯電話
緊急時の連絡手段を必ず確保しましょう。

④飲料水
長時間活動する場合には必ず飲料水を携帯しましょう。

⑤パドルフロート
再乗艇時に艇を安定させる道具です。





パドルフロートの使用例
空気を充満させたフロートをパドルの片方に取り付け浮力を確保することで、再乗艇が容易にできます。

状況に応じた装備の推奨～



マリンシューズ

活動する海域周辺が磯場などではマリンシューズを準備しておくと良いでしょう。



エイドキット

救助が来るまでの間、簡易な手当てができるように準備しておきましょう。



スプレースカート

（※写真はシーカヤックでの使用例）

スプレースカートを着用することで艇内への浸水を防ぐことができます。



キャップ

熱中症対策のため、キャップを着用するのが好ましいでしょう。



ビルジポンプ

船底に貯留した水を簡単かつ効率的に排出することが出来ます。

ハッチカバー、ドレンプラグがあるカヌーの取扱いには注意！

重要

カヌーには荷物が入れられるようにハッチカバーやドレンプラグ（水抜き用のキャップ）取り付けられているものがあります。閉めておかないと艇内に水が入り、カヌーが沈んでしまいます。









※ハッチカバーがある、シットオン・トップカヤックの例

１枚目：シットオン・トップカヤックが転覆し、自力復旧を試みている様子。

２枚目：乗り込もうとしたところ、艇が大きくローリングしてしまい前方のハッチから海水が流入している様子。

３枚目：海水が大量に艇内部に流れ込んだことで前部が沈み、船尾部分がわずかに浮いている様子。

以後、現場で排水作業を試みたものの復旧できませんでした。
同様の浸水事故が平成３０年に４隻発生

その他の注意事項～転覆の要因例～

過積載・海面下を覗く



横から波を受ける



カヌーは転覆しても再乗艇が可能な構造になっていますが、技術不足などにより転覆後、再乗艇できずに漂流する事故が発生しています。また、写真のように海面下を覗く動作は転覆し易くなることから、安全確保のためには、十分な知識と技術の習得が重要となります。
（※写真はシットオン・トップカヤックでの転覆を再現したもの）

まとめ

～カヌーを安全に楽しむための注意事項～

気象情報の常時確認

コース周辺の船舶の通航実態の把握

出発前の装備品の確認

ハッチカバーの閉鎖の確認

基本的スキル（再乗艇など）の習得